



取扱説明書

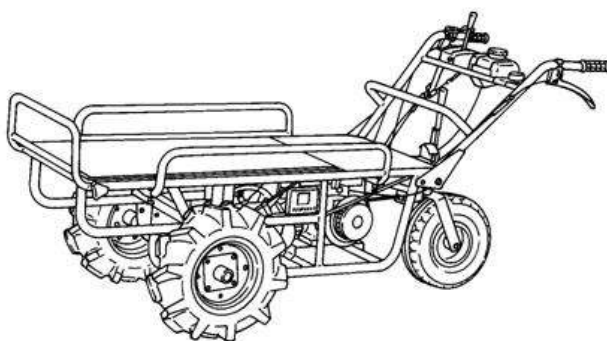


当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。お読みになった後も必ず保存してください。

機種名

SC-3B
SC-3D
SC-3E

マメキャリー



マメトラ 農機株式会社

目次

● はじめに	I
● サービスと保証について	II
● 目次	1
1. 安全作業のための心得	2
2. 安全標識の貼付位置	6
3. 各部の名称とはたらき	8
3-1 操作部	8
3-2 荷台部	9
4. 運転開始前の準備と注意	10
5. さあ、運転開始です	12
5-1 エンジン始動のしかた	12
5-2 発進のしかた	14
5-3 変速のしかた	14
5-4 旋回のしかた	16
5-5 駐・停車のしかた	16
5-6 エンジン停止のしかた	18
5-7 トラック等への積込みと積降しのしかた	18
6. 荷台の取扱い	20
7. 作業が終わったら、必ず手入れを	21
7-1 作業をしたら、そのたびに手入れを	21
7-2 定期点検と整備	21
8. 長期間使用しないときの格納のしかた	30
9. 機械が不調の場合の対策	32
10. 機械の特長と仕様	34

1 安全作業のための心得

■本機を使用するにあたって

使用する人の条件

次のような項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき
- 妊娠しているとき
- 子供の方
- 取扱方法を熟知していない人



使用する人の服装

機械に巻き込まれる事故を予防するため、はち巻き・首巻き・腰タオルをしないでください。また、滑って転倒する事故を予防するため、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、だぶつきの無い服装をしてください。



機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。



機械の改造厳禁

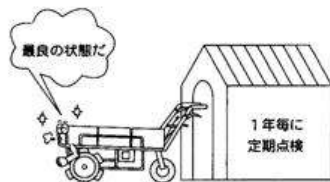
純正部品や指定以外のアタッチメントを取付けしないでください。また、機械を改造しないでください。



■点検整備をしてください

1年毎に定期点検整備を

機械の整備不良による不具合や事故を予防するために、1年毎に定期点検・整備を受け各部の保守をしてください。特に燃料パイプや電気配線は、2年毎に交換して、機械が最良の状態、安全に作業ができるようにしましょう。



点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備をおこなってください。特に、クラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。



■点検整備をしてください

点検・整備・掃除をするときは

点検・整備、またはアタッチメントの脱着・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり動いたりしない平坦で安定した場所を選び、エンジンを止めてください。また、誤ってエンジンが始動することのないよう燃料コックを閉にし、完全な停止状態で過熱部分が十分に冷めていることを確認してからおこなってください。



排気ガスには十分に注意

屋内などでエンジンを始動する場合、排気ガスによる中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所でおこなうようにし、十分に換気をおこなってください。



カバー類は必ず取付ける

ベルトカバーなどの防護装置を取外す場合は、必ずエンジンを止め、完全な停止状態を確認してからおこなってください。また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。



給油・注油するときは

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、火傷や火災の危険がありますので絶対に給油・注油をしないでください。また、給油中はタバコや裸火照明などの火気は厳禁です。



長期格納するときは

火災などを予防すると共に、燃料の変質による不具合を防止するために、燃料タンク・気化器内の燃料を抜き出し、バッテリーを取外して保管してください。



人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

エンジンの始動や発進するときには

クラッチを[切]り、変速レバーを[中立]にし、周囲の人に合図してからエンジンを始動してください。周囲の人に危害を加えたり転倒や衝突したりしないように周囲の安全を確かめ、急発進しないように徐々に発進してください。

1 安全作業のための心得

■作業・移動をするとき

傾斜地での作業は、注意してください

10度以上の傾斜地での作業は、危険を伴いますから無理な作業はやらないように心掛けてください。



過大な荷物は積み込みしてはいけません

この運搬車の最大積載量は200kgですので、過大な荷物は積み込まないようにしてください。



積荷をするときは

積荷を高く積みますと、機械の重心位置が高くなり転倒しやすくなります。特に傾斜地や凸凹な所では転倒の危険があります。



機械から離れるときには

機械から離れるときには、平坦で安定した場所におき、エンジンを止め、各部が完全な停止状態になっていることを確認してください。やむを得ず傾斜地に置くときは、必ず車止めをしてください。



人は乗せてはなりません

荷台等には、人は乗せてはなりません。一般道路での通行はしてはいけません。



後進しながら作業するときは

転倒しないように足元に十分に注意し、後方に障害物がないか確認して後方の障害物と本機との間に挟まれないようにしてください。特に、ハウス内では、壁や支柱との間に挟まれたりすることの無いようにしてください。



■作業・移動をするとき

移動するときは

坂道・凸凹の激しい道・曲がり角・そばに溝がある道・路肩の弱い道などでは、スピードを落とし、最も安全に通行できる場所を選んで通ってください。

また、焚き火や排ワラを燃やしている近くは走行しないでください。事故や火災の原因となります。



急な発進・停止・旋回、スピードの出しすぎ禁止

スピードを出しすぎたり、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますのでおこなわないでください。



わき見運転・片手運転禁止

ハンドルやクラッチは正しく操作し、わき見や片手での運転はしないでください。



坂道では

坂道では、操向クラッチレバーを操作すると、機械が思わぬ方向に旋回してしまうことがありますので操向クラッチレバーを使わずにハンドルを振って方向転換をしてください。

坂道での方向転換はハンドルを振ってネ



溝や畦を横断したり、軟弱な場所を通るときには

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あり、表面がすべらないように処理してあるアユミ板をかけ、最低速度で操向クラッチレバーを使わずに通ってください。

もし、落ち込んだ場合には、無理に脱出しようとせず、先ず状況判断して適切な処置を巧んでください。



トラックなどに積込み・積降しするときは

平坦で交通の安全な場所で、トラックなどが移動しないようにエンジンを止め、サイドブレーキをかけ車止めをし、幅・長さ・強度が十分あり、表面がすべらないように処理してあるアユミ板をかけ、最低速度で操向クラッチレバーを使わずにおこなってください。

また、登るときには前進、降りるときには後進でおこなってください。さらに、積込んだときには、本機に車止めをし、十分に強度あるロープでトラックに確実に固定してください。



2 安全標識の貼付位置

安全に作業をしていただくために、最低限に守っていただきたい注意事項を記載したラベルを機械に貼付けてあります。

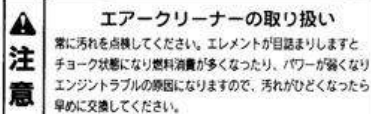
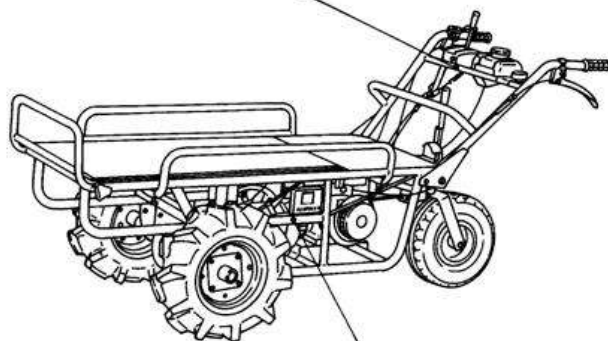
注意



★注意表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。ラベルが汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。



BMA 0003 001



BMA 0505 000

安全に作業をする為に次のことがらを必ず守って下さい

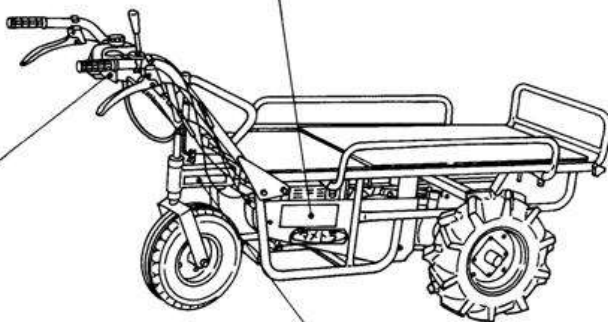
注意

- 取扱説明書を良く理解してから、作業を開始して下さい。
本機の取扱法を熟知していない人は、使用しないで下さい。
- 過労、病気、その他の理由で、正常な運転操作が困難と思われる時は、機械作業に従事しないで下さい。
- 作業に適した作業衣、帽子を着用して衣服の一部や頭髮、手拭等が機械に巻き込まれないようにして下さい。
- 荷台等には、人は乗せてはなりません。
- 機械の改造は、みだりに行ってはいけません。
- この運搬車は、一般道路での通行は禁止されています。

8MA 0043 001

注意
エンジンを始動する時は主クラッチレバーを必ず「切」にすること。

8MA 0007 007



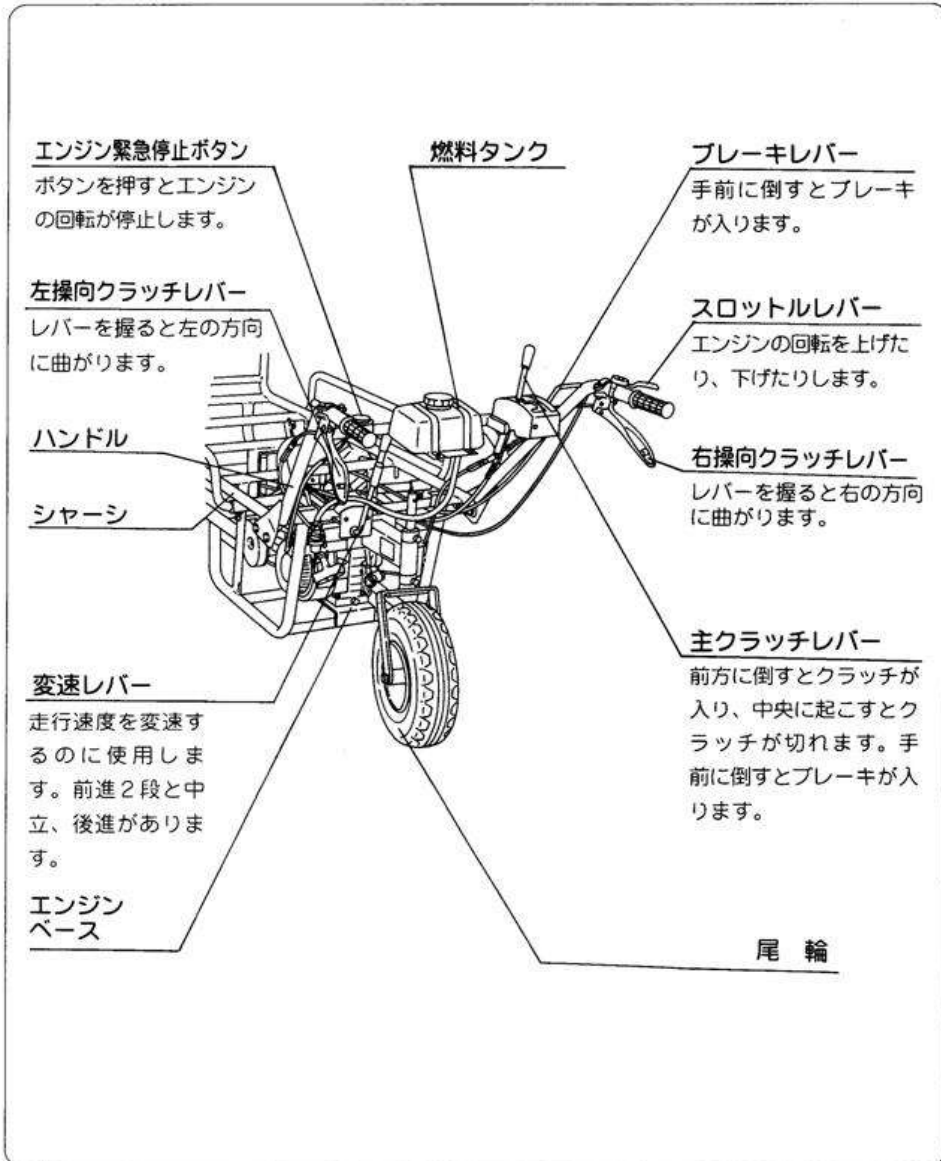
注意

リコイルスタータで始動の際はチェンジレバーを必ずニュートラルの位置にして下さい。

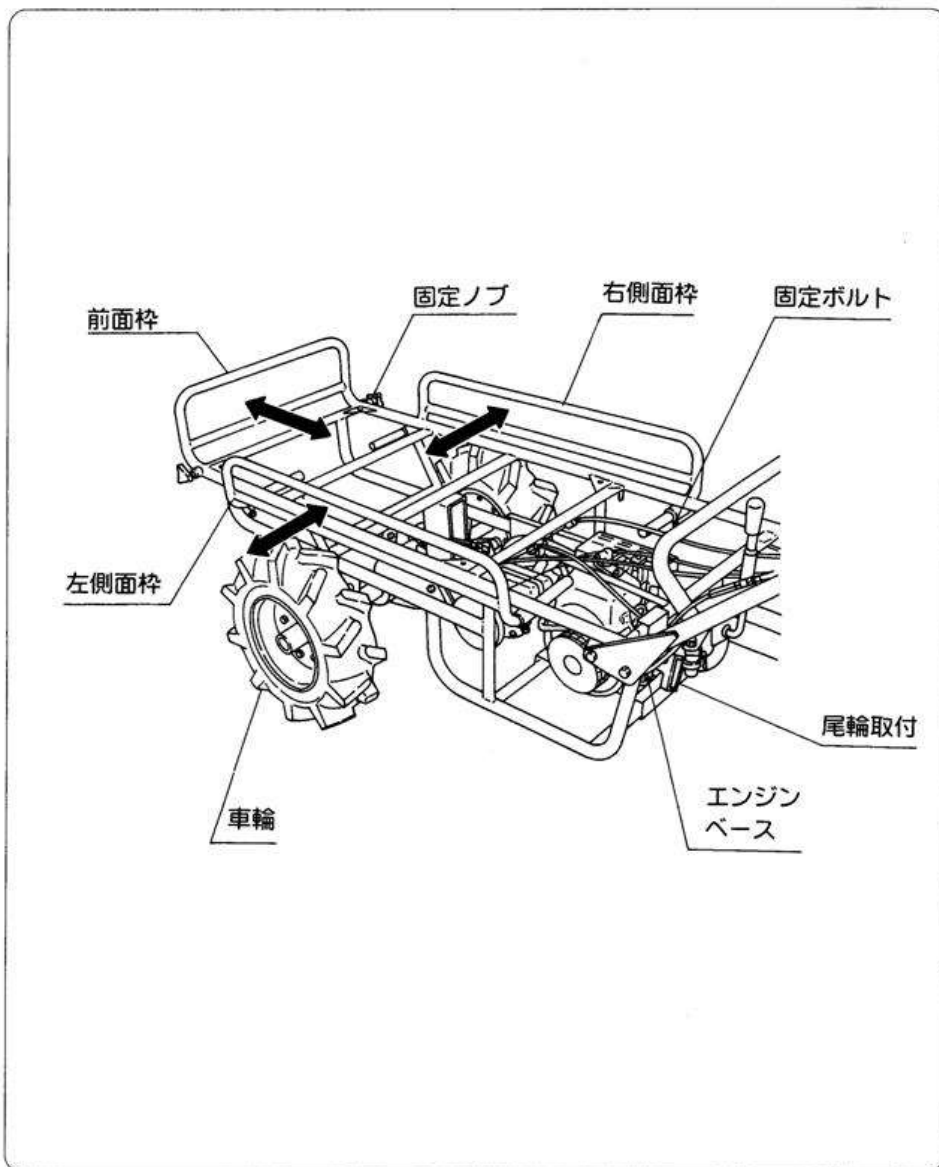
8MA 0506 000

3 各部の名称とはたらき

3-1 操作部



3-2 荷台部



4 運転開始前の準備と注意



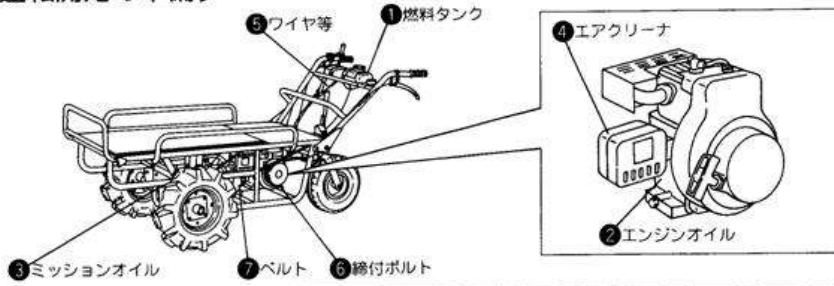
警告

- ★必ずエンジンは、停止してください。
- ★エンジンが熱い間は、注油、給油は絶対にしないでください。
- ★燃料を補給するときは、火気を絶対に近づけないでください。
- ★取外したカバー類は、必ず取付けてください。

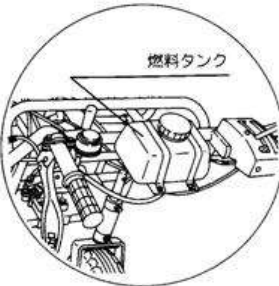
次の順番で点検と処置をおこなって、快適で安全な作業をおこないましょう。

- ① 燃料の補給
燃料タンクに必要なして十分な燃料を入れてください。
- ② エンジンオイル（ガソリン用オイル30番）を規定量まで補給してください。
☆補給・点検の方法は、7-2（P22）参照
- ③ ミッションオイル（90番）を規定量まで補給してください。
☆補給・点検の方法は、7-2（P23）参照
- ④ エアクリーナーが汚れているときは、洗浄してください。
☆方法は、7-2（P24）参照
- ⑤ 全てのワイヤやレバー等の支点や回動部に注油をしたり、グリースアップして、円滑に作動するようにしてください。
☆方法は、7-2（P28）参照
- ⑥ エンジンの締付けボルト、ハンドルの取付けボルト等重要なボルトは、増締めしてください。
- ⑦ ベルトの摩耗や損傷並びにゆるみがあれば、調節や交換をしてください。
☆方法は、7-2（P28）参照

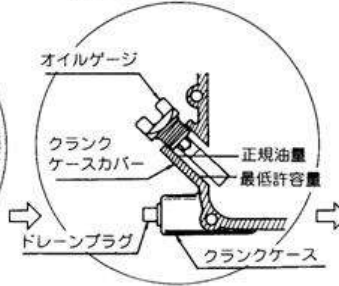
〔運転開始の準備〕



①燃料の補給



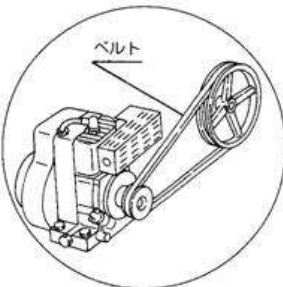
②エンジンオイルの点検と補給



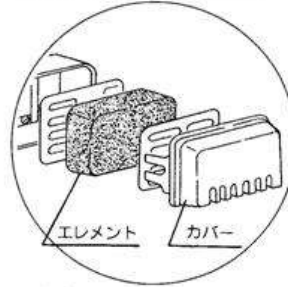
③ミッションオイルの点検と補給



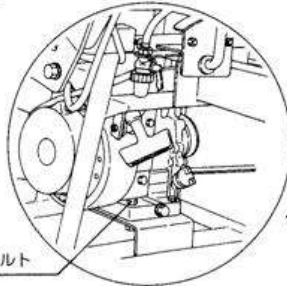
⑦ベルトの点検



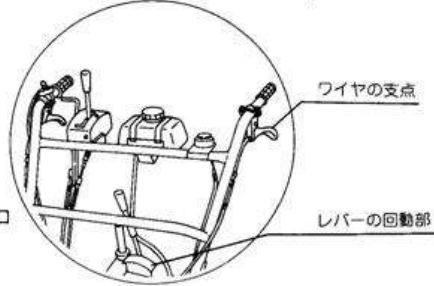
④エアクリーナの点検



⑥ボルトの締付け



⑤回動部に注油



5 さあ、運転開始です



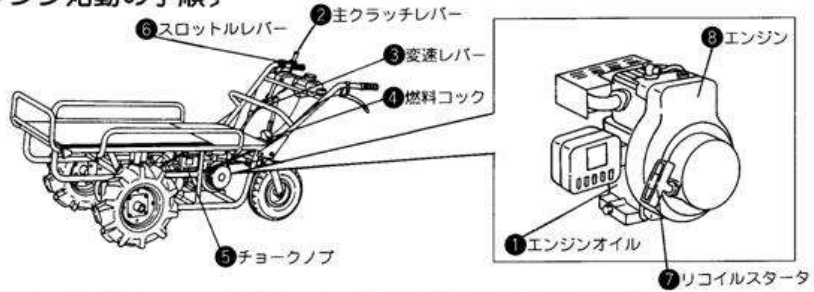
警告

- ★周囲の安全を確かめて、発進してください。
- ★坂道や凸凹、カーブの多い圃場では、高速運転はしないでください。
- ★傾斜地では、変速しないでください。

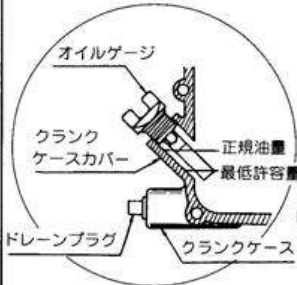
5-1 エンジン始動のしかた

- ① 始動の前に、エンジンオイル20番の油量を確かめてください。冬期間、リコイルスタータが重く、始動が困難なときは、エンジンオイル10番を使用してください。但し、夏期間は、必ず20番または30番のエンジンオイルにもどしてください。
- ② 主クラッチレバーは [切] 位置にしてください。
- ③ 変速レバーは [止 (中立)] 位置にしてください。
- ④ 燃料コックを開いてください。
- ⑤ チョークノブを引いて、チョークを閉じてください。(夏期間やエンジンが暖かいときは、チョークを作動させる必要はありません)
- ⑥ スロットルレバーを [高(H)] と [低(H)] の中間位置(S) にしてください。(スロットルが1/2開く事になります)
- ⑦ リコイルスタータを圧縮のあるところまで軽く引き、一端もどしてから勢いよく引っ張り、エンジンが始動したら、チョークを徐々に元の位置にもどします。(リコイルスタータを1~2回操作しても始動しないとき、そのまま何回も引っ張っていると、燃料の吸いすぎとなり、始動が更に困難となりますので、チョークを元の位置にもどして、リコイルスタータを引張ってください)
- ⑧ エンジンが始動したら、負荷を掛けずにエンジンを掛けたまま、5分暖気運転をしてください。

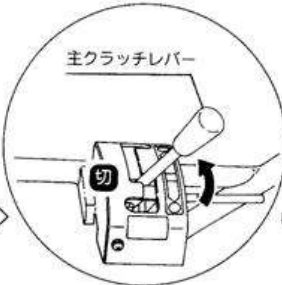
〔エンジン始動の手順〕



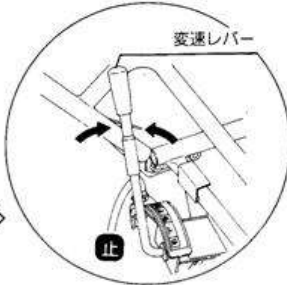
① エンジンオイルの点検



② 主クラッチレバー [切]



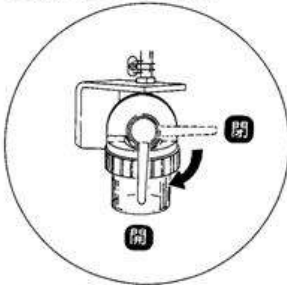
③ 変速レバー [止]



⑧ 暖気運転してね!!



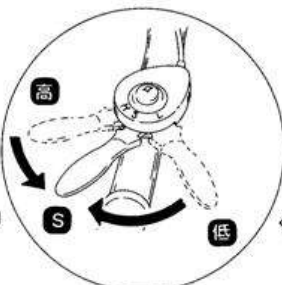
④ 燃料コック [開]



⑦ リコイルスタータ [引]



⑥ スロットルレバー [S]



⑤ チョーク [閉]



5 さあ、運転開始です

5-2 発進のしかた



警告

★周囲の安全を確かめて、発進してください。

- ① スロットルレバーでエンジンの回転を少し上げてください。
- ② 変速レバーを希望の速度にしてください。
- ③ 主クラッチレバーを徐々に【入】位置にして、ゆっくり発進します。

5-3 変速のしかた

警告



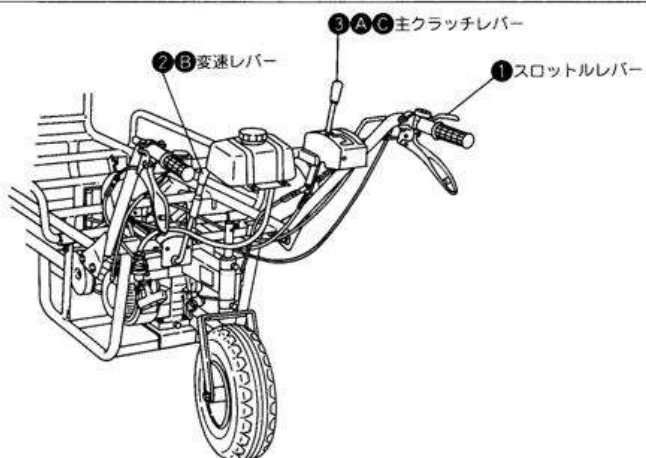
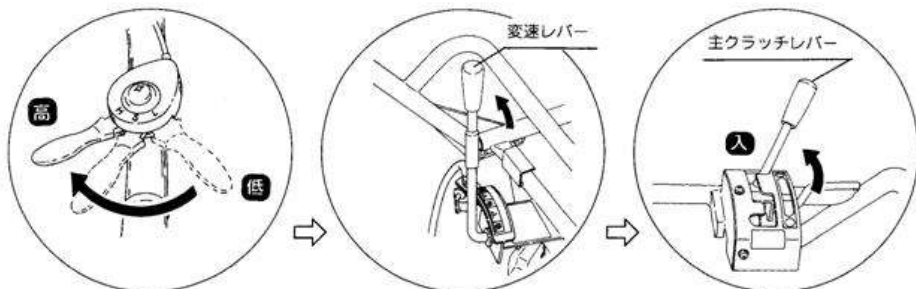
★坂道では、変速はしないでください。

★トラックへの積込み、積降しをするときには、変速はしないでください。

- ① 主クラッチレバー【切】位置にしてください。
- ② 変速レバーを操作して、希望の速度にしてください。
(変速レバーが入りにくいときは、ギヤの噛合いの位置が悪いためですから、無理に入れずに、主クラッチレバーを半クラッチの状態にしてください。無理に入れようとすると、故障の原因になります)
- ③ 主クラッチレバーを徐々に前に倒して、【入】位置にして、ゆっくり発進します。

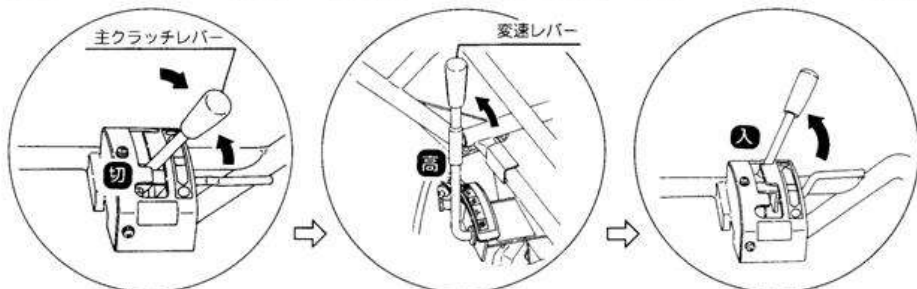
〔発進の手順〕

- ① スロットルレバー [H] ② 変速レバー [希望速度] ③ 主クラッチレバー [入]



〔変速の手順〕

- ① 主クラッチレバー [切] ② 変速レバー [希望速度] ③ 主クラッチレバー [入]



5 さあ、運転開始です

5-4 旋回のしかた



警告

★坂道では、操向クラッチレバーを操作しないでください。
★トラックへの積み込み、積降しをするときには、操向クラッチレバーを操作しないでください。

- ① 旋回したい側の操向クラッチレバーを握って旋回します。通常は、右の操向クラッチレバーを握ると右に旋回します。左の操向クラッチレバーを握ると左に旋回します。
- ② 操向クラッチが重たくて切れにくいときは、旋回したいほうにハンドルを振ってから操向クラッチを操作してください。
- ③ 旋回をするときは、可能な限り走行速度を落としてください。

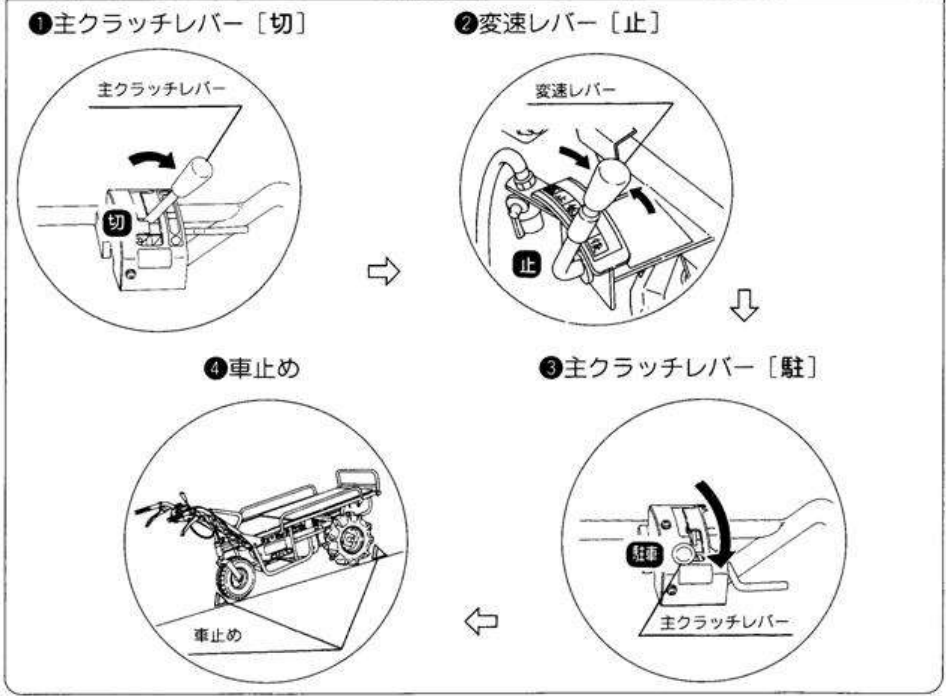
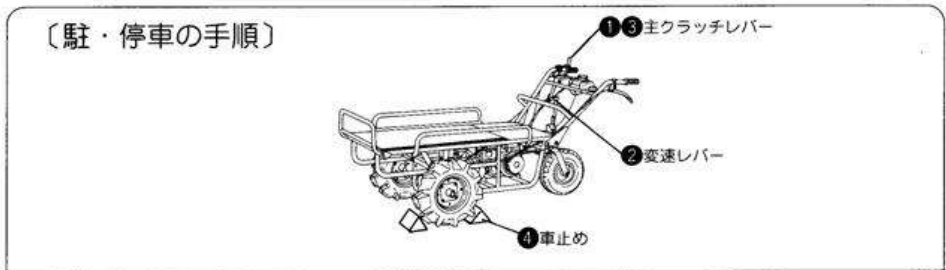
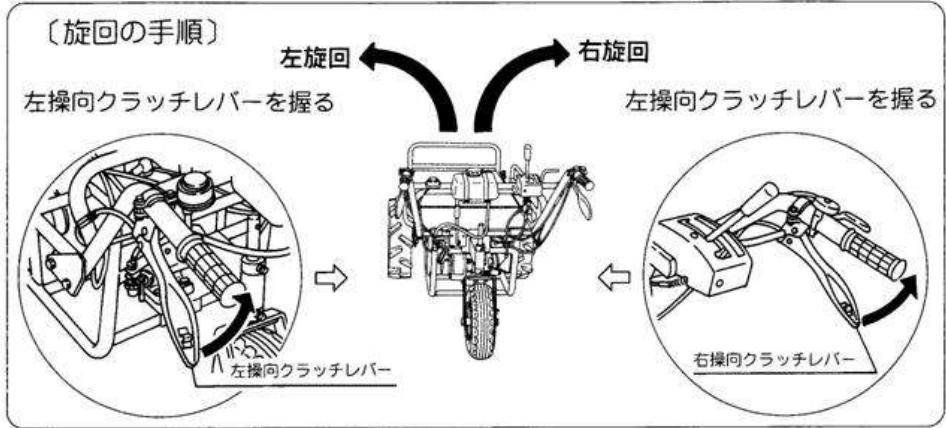
5-5 駐・停車のしかた



警告

★機体から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。

- ① 主クラッチレバーを〔切〕位置にしてください。
- ② 変速レバーを〔止(中立)〕位置にしてください。
- ③ 主クラッチレバーを更に手前に引いて〔駐〕位置にして、ブレーキを掛けてください。
- ④ 坂道や傾斜地では、安全のために、車止めを車輪の前後に置いてください。



5 さあ、運転開始です

5-6 エンジン停止のしかた

注意



★ [エンジン緊急停止ボタン] を押せば、エンジンは止まりますが、通常は、必ず下の手順にしたがってエンジンを停止してください。

- ① 主クラッチレバーを手前に引いて、[駐]位置にしてブレーキを掛けてください。
- ② 変速レバーを[止(中立)]位置にしてください。
- ③ スロットルレバーを[L(低)]位置にしてください。
- ④ 燃料コックを[閉]位置にしてください。
- ⑤ エンジンが止まるまで、停止ボタンを押してください。
- ⑥ リコイルスタータをゆっくり引いて、重たくなる位置(圧縮位置)で止めてください。

5-7 トラック等への積み込みと積降しのしかた

危険



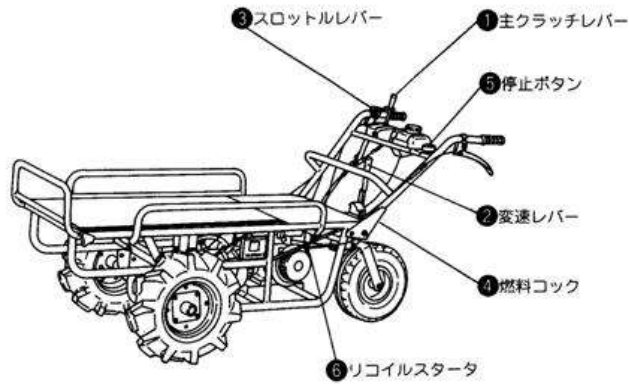
★あゆみ板の上では、絶対に主クラッチレバー、変速レバー、操向クラッチレバーを操作しないでください。転倒、転落の恐れがあります。

★荷台に荷物を乗せたまま、積み込み、積降しをしてはいけません。

- ① 平坦で安全な場所を選び、トラックは動かないようにエンジンを止めて、ギヤを入れて、サイドブレーキを引き、車止めをしてください。
- ② あゆみ板は、車輪の幅よりも広く、丈夫で長い板を使用し、ゆるい勾配にして、ゆっくり積込んでください。積降しも同じ要領です。



〔エンジン停止の手順〕



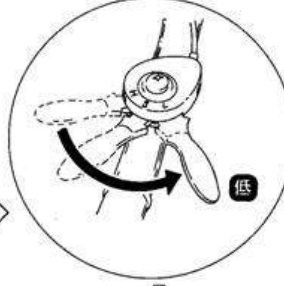
①主クラッチレバー〔切〕



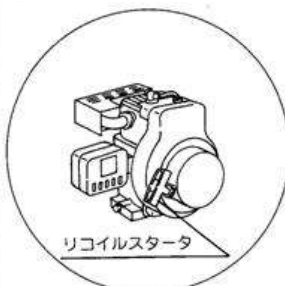
②変速レバー〔止〕



③スロットルレバー〔低〕



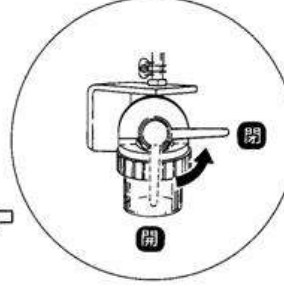
⑥リコイルスタータ



⑤停止ボタン〔押〕



④燃料コック〔閉〕

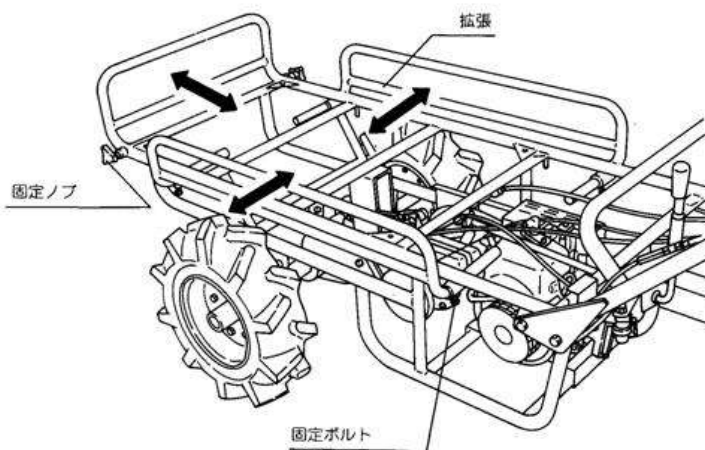


6 荷台の取扱い



- ★適正な荷重以上は、積まないでください。
- ★積荷の重心は、荷台の中心と一致するように心掛けてください。
- ★積荷を高く積みすぎると、重心が高くなり、転倒の危険があります。
- ★積荷の積降し作業は、必ずエンジンを停止しておこなってください。

- 荷台裏側の固定ノブをゆるめ、側板、全面板を引き出すと荷台を広く利用できます。



7 作業が終わったら、必ず手入れを

7-1 作業をしたら、そのたびに手入れを

- ① その日の内に水洗いをして、水洗い後はよく水分を拭取ってください。
- ② ワイヤ、レバー等の回転部、摺動部に注油してください。

7-2 定期点検と整備



★定期点検をおこたると、機械が故障したり、安全性を損ないます。

点検・整備表

(一般的な使用条件の下での点検・整備の項目とその時期をまとめておきます)

点検・整備の項目	点検・整備時間				
	作業時	20時間	50時間	100時間	随時
●エンジンオイルの点検と補給	○				○
●エンジンオイルの交換		○	○		
●ミッションオイルの交換		○		○	
●エアクリーナの清掃		○			○
●ストレーナの清掃					○
●点火プラグの調節と交換				○	○
●レバー類の作動と点検	○				
●ベルトの点検と調整		○			○
●作動部への注油等	○				
●ボルト、ナットの点検	○				
●車輪の点検と調整					○

注：○印は、第1回目の交換時間の目安

7 作業が終わったら、必ず手入れを

(1) エンジンオイルの点検と補給

- ① オイルゲージを取外してください。
- ② きれいな布でゲージに付いている油を拭取り、もう1度給油口に差込み油の量を確認してください。
- ③ 油の量が不足していたら、給油口から規定のエンジンオイルを静かに注入してください。

(2) エンジンオイルの交換



注意

- ★新しい機械には、エンジンオイルが入っていない事があります。
- ★排出するエンジンオイルで火傷をしないように注意してください。
- ★必ず規定のエンジンオイルを使用してください。
- ★初回は、少なくとも20時間機械を使用したら、オイル交換をしてください。

○使用オイル

SC級、SD級、SE級の良質の新しいオイルを使用してください。

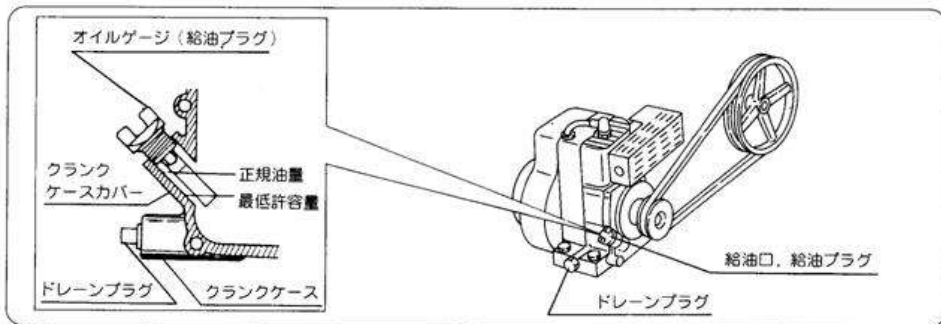
夏期間～SAE-30・SAE10W-30・SAE10W-40

冬期間～SAE-20・SAE10W-30

○使用オイルの量

0.32ℓを目安にしてください。

- ① エンジンクランク室の給油口の給油プラグをはずしてください。
- ② ドレンプラグをはずして、汚れたオイルを流し出してください。
(エンジンが暖かい内に抜取ると作業が容易にできます。前車輪に5～7cmの板を敷いて後方を低くすると、オイルが抜けやすくなります)
- ③ 汚れたオイルが完全に無くなったら、ドレンプラグを確実に締付けてください。
- ④ エンジンオイルを給油口からゆっくりと流し込んでください。
- ⑤ エンジンを水平にして、ときどき給油口にオイルゲージを差し込んで、オイルの量を確認してください。オイルゲージの上限と下限の間にオイルが付いていれば、規定量と考えてください。
- ⑥ 給油プラグを確実に締付けてください。

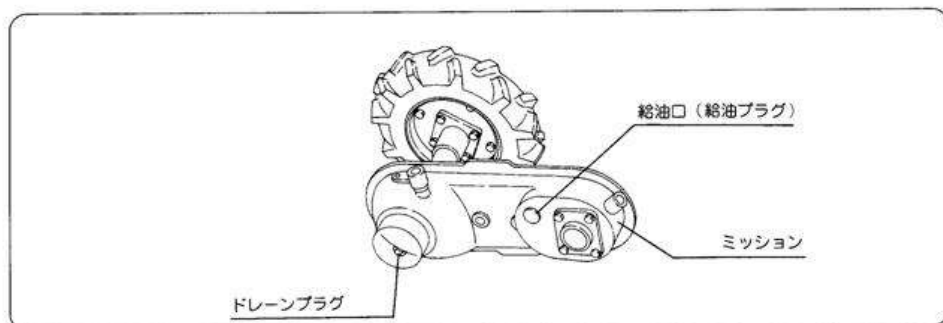


(3) ミッションオイルの交換



- ★必ず規定のエンジンオイルを使用してください。
- ★初回は、少なくとも20時間機械を使用したら、オイル交換をしてください。
2回目以後は、1年に以下(100~200時間)毎

- ① ミッションの給油口の給油プラグをはずしてください。
- ② ドレーンプラグをはずして、汚れたオイルを流し出してください。(オイルが暖かい内に抜取ると作業が容易にできます。尾輪に5~7cmの板を敷いて後方を低くすると、オイルが抜けやすくなります)
- ③ 汚れたオイルが完全に無くなったら、ドレンプラグを確実に締付けてください。
- ④ 給油口からミッションオイルSAE90番をゆっくりと流し込んでください。
- ⑤ 機体を水平にもどして、給油口からオイルがトランスミッションの底部の半分ぐらいまで満たされているのが確認できます。これが規定量です。(約0.08ℓ)
- ⑥ 給油プラグを確実に締付けてください。



7 作業が終わったら、必ず手入れを

(4) エアクリーナーの手入れ



- ★洗浄するときには、エレメントを強く引張ったり、揉んだりしないでください。エレメントが破れます。
- ★エレメントが汚れたまま使用すると、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

- ① グリップをはずし、カバーを外してください。
- ② カートリッジからエレメントをはずしてください。
- ③ エレメントを石鹸水またはガソリン4に対してオイル1の混合油で洗ってください。
- ④ エレメントをしぼって、乾いたきれいな布で水気を取ってください。
- ⑤ エンジンオイルを染込ませ、吸引力のある布で包み、余分なオイルを拭取ってください。
- ⑥ カートリッジに取付け、カバーを正しく取付けてください。

(5) ストレーナーの手入れ



- ★ストレーナーに、異常に水やゴミがおおいときは、新しい燃料に交換してください。

- ストレーナーを外して、カップの底に沈殿しているゴミや水を抜取ってください。

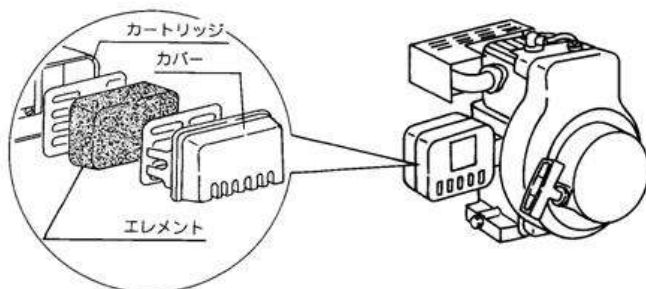
(6) 点火プラグの調節と交換



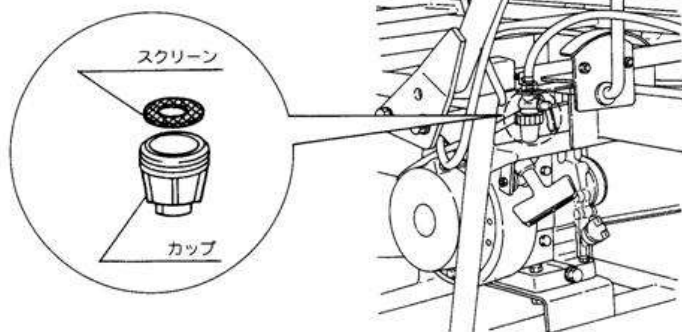
- ★点火プラグの火花間隔は、0.6~0.7mmが適正です。

- ① エンジンの調子が悪いときには、点火プラグに原因があることもあります。プラグを抜いて、火花間隔を調整してみてください。
- ② 調整が終わったら、点火プラグを元の位置に差込み、プラグキャップを確実に差込んでください。

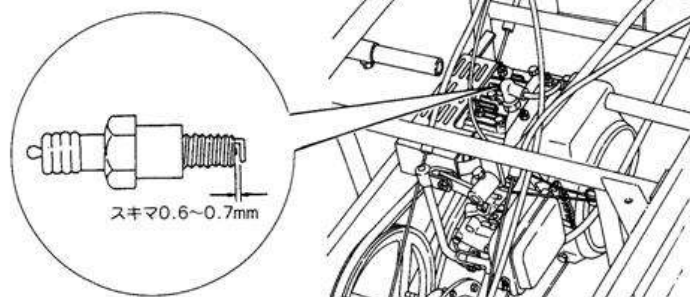
〔エアクリーナの手入れ〕



〔ストレーナの手入れ〕



〔点火プラグの調節〕



7 作業が終わったら、必ず手入れを

(7) 注油とグリースアップ

- ① レバー類、軸受部、開閉カバーのリング部分等の作動部には、油差しで注油してください。
- ② 全てのワイヤは、ワイヤを作動させながら注油をしてください。

(8) 尾輪の調整と注油

- ① 尾輪フォークの上下のカラーセットボルトをゆるめてください。
- ② 8cm上下できます。上位置または下位置のどちらかでセットボルトを固定してください。
- ③ 尾輪軸のキャップを移動して注油してください。

(9) ハンドルの調整

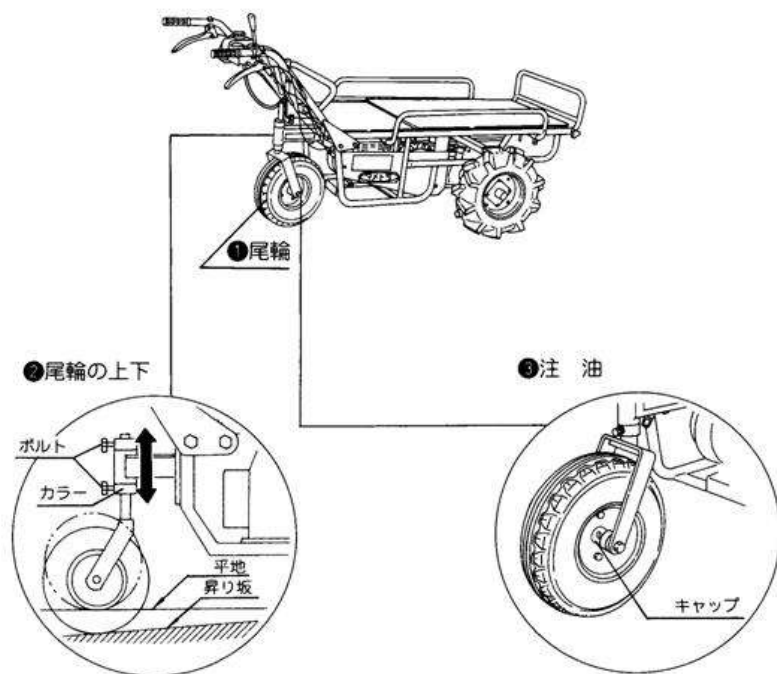


注意

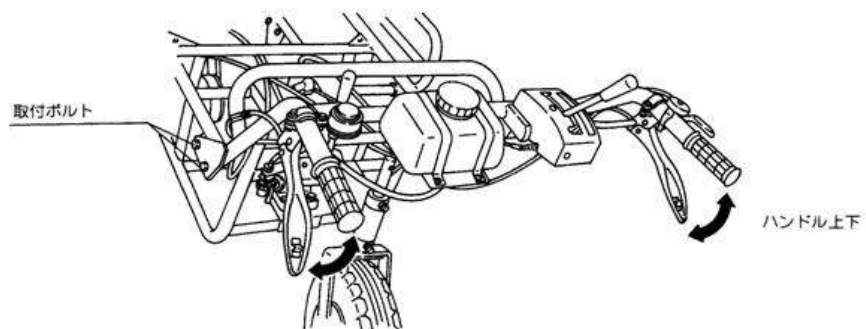
★梱包の関係でハンドルが分解されている場合があります。ハンドルを組立てるときには、長穴の方に平座金、バネ座金を使用してください。

- 取付ボルトをゆるめ、運転しやすい位置で固定してください。

〔尾輪の調整〕



〔ハンドルの調整〕



7 作業が終わったら、必ず手入れを

(10) レバー類作動の点検と調整



注意

★ワイヤは、出荷時には調整されていますが、使用中にワイヤの初期伸びがあります。

★レバー類を調整したら、必ずこれらが確実に作動するかを確認してください。

1) 主クラッチレバーとベルトの調節

主クラッチレバーを前に倒すと、テンションプーリと連動されてクラッチが【入】ります。真ん中に起こすとクラッチが【切】れます。

手前に引くと、ブレーキレバーと連動してブレーキが【入】ります。

- ① 主クラッチレバーを【入】位置にしてください。
- ② ベルトカバーを取外し、ベルトを点検してください。ベルトの中央を指で軽く押さえて、ベルトのたわみ量が10mm内外になるようにレバーの調整ナットの調整をしてください。
- ③ 調整ボルトの調整だけでは、不完全な場合はエンジンのボルトをゆるめ、エンジンの位置を調整してください。
- ④ エンジンの固定ボルトを確実にしめてください。
- ⑤ 取外したカバーを必ず取付けてください。

2) ブレーキレバーとブレーキの修正

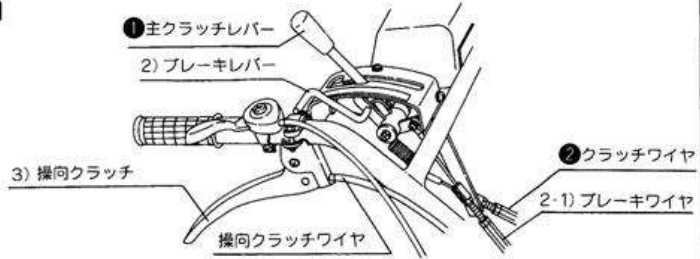
ブレーキレバーは主クラッチレバーと連動されていますが、ブレーキレバー単独でブレーキを掛けることができます。

- ① ブレーキ操作の利きが悪いときは、ブレーキレバーに取付けられているブレーキワイヤの調整ネジを調整してください。
- ② 操向レバーを【止(中立)】位置に、主クラッチレバーを【切】位置にして車体を軽く前後できるように、ブレーキワイヤの調整をしてください。

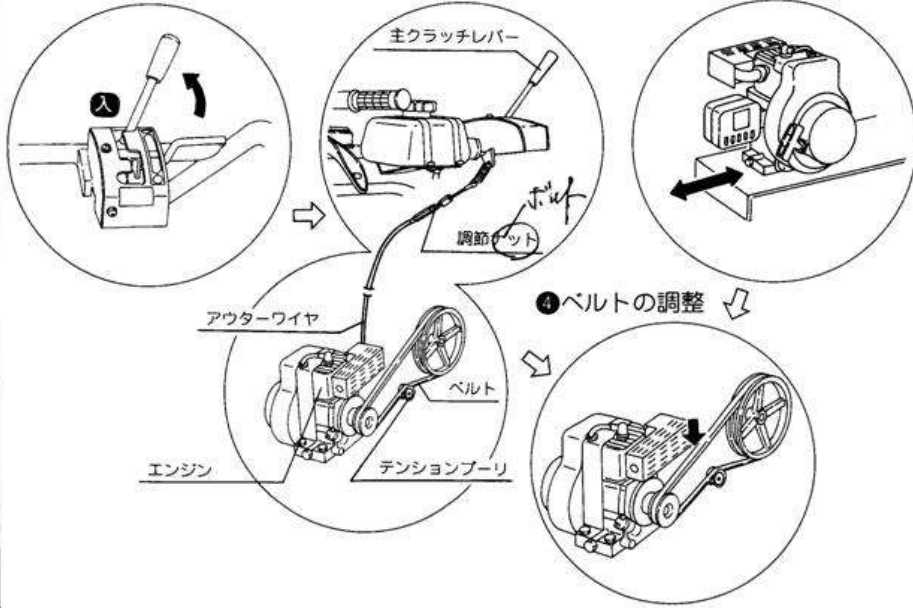
3) 操向クラッチの調整

- 操向クラッチが確実に【入】・【切】ができるように、操向クラッチ調節ネジで調整してください。

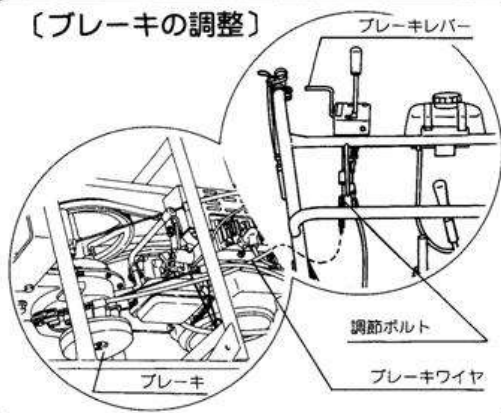
〔ベルトの調整〕



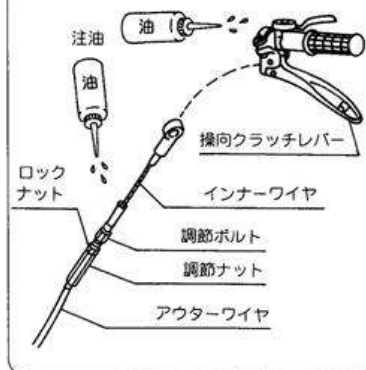
①主クラッチレバー [入] ②クラッチワイヤの調整 ③エンジンの移動



〔ブレーキの調整〕



〔操向クラッチの調整〕



8 長期間使用しないときの格納のしかた



★燃料を抜くときは、火気は厳禁です。風通しのよい所で作業してください。
抜取ったガソリンは、安全な所に保管してください。

(1) 清掃、洗浄、注油

- ① 車輪や荷台等に付着した泥、ゴミ、屑等は、よく落として水洗いし、水洗後は水分をよく拭取り乾燥してください。
- ② 回転部、摺動部には、たっぷりオイルを差し、グリースアップをしてください。

(2) オイル交換

- ① オイル交換の時期になっているときは、定期点検の手順にしたがってオイルの交換をしてください。

(3) 燃料の抜き取り

- ① 燃料タンクのコック側のホースをはずして、燃料容器に燃料を受けて、タンクを完全に空にしてください。
- ② キャブレターのドレーンプラグをゆるめて、燃料を容器に受けてください。燃料が完全に抜けたら元にもどしてください。
- ③ ストレーナの中に入っている燃料も空にしてください。

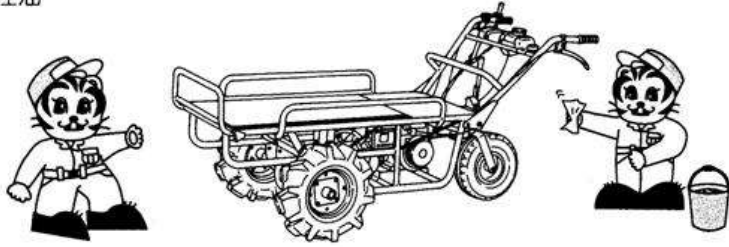
(4) エンジン

- ① 点火プラグをはずし、プラグの穴からエンジンオイル30番を約10cc入れ、リコイルスタータを2～3回引き、プラグを取付けてリコイルスタータを軽く引き、圧縮のある所で止めておいてください。

(5) 格納

- ① 車輪の下には、板を敷いてください。

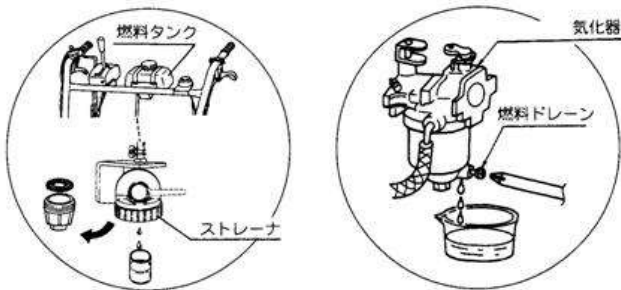
(1) 洗浄と注油



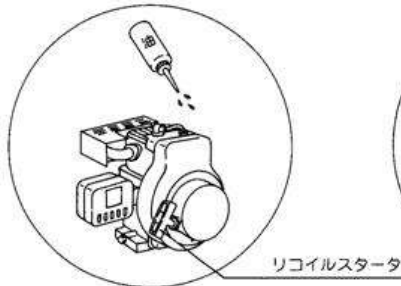
(2) オイル交換



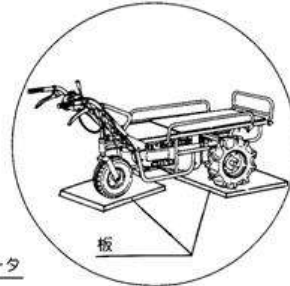
(3) 燃料の抜取り



(4) エンジン



(5) 格納



9 機械が不調の場合の対策



警告

★エンジンの整備には、特別な工具やエンジンの専門工場でないといけないものがあります。

★使用者が整備できる項目とその対策のみを示しておきます。

9-1 エンジンが始動しないとき

(1) 燃料を確認してください。

→燃料を規定量入れてください。

(2) ストレーナのcockを確認してください。

→cockを[開]にしてください。

(3) 燃料が流れているかを確認してください。

→燃料パイプの詰まりを調べてください。

(4) 燃料が良好な物かを確認してください。

→新しい燃料と交換してください。

(5) 燃料に水が混入していないかを確認してください。

→ストレーナに水が溜まっていれば、水抜きをしてください。

(6) 点火プラグを確認してください。

① 点火プラグが乾いているときは

→燃料がシリンダまで流れていないので、その対策をしてください。

② 点火プラグがぬれているときは

→燃料の吸い過ぎですので、プラグの湿りを拭取りチョークを[開]にして、リコイルスタータを1~2回またはエレクトリックスタータを1~2秒回して、吸い過ぎた燃料を排出してください。エアクリーナを清掃してください。

③ 点火プラグが不良な場合

→新しい点火プラグと交換してください。

9 機械が不調の場合の対策

9-2 エンジンの力が弱いとき

- (1) エアクリーナを確認してください。
→目詰まりを取るよう清掃してください。
- (2) リコイルスタータのエアの入口が詰まっているかを確認してください。
→目詰まりを取るよう清掃してください。
- (3) エンジンオイルを確認してください。
→補充または交換してください。
- (4) ベルトを確認してください。
→ベルトが張り過ぎているので、適正な張りにしてください。

9-3 クラッチレバーを[入]れても作動しないとき

- (1) ワイヤを確認してください。
→ワイヤが伸びている場合が多いので、ワイヤを調整してください。
- (2) ベルトを確認してください。
→ベルトの張りを調整してください。

10 機械の特長と仕様

10-1 特長

1. エンジン、ミッション等重い部品は荷台の下に設置してありますので、重心が低く、安定性は抜群です。
2. 小型ですが、200kgまで積むことができます。
3. 全面枠、側面枠を拡張できますので、大きな荷物もらくらくと積み込むことができます。
4. ワンタッチで、エンジンの停止ができる〔緊急停止ボタン〕を付けてありますので、より安全な作業が期待できます。
5. ブレーキレバーによって、坂道を下るときなどは簡単な操作で、走行速度を調整することができます。

10-2 仕様

形式		SC-3B	SC-3D	SC-3E
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1,700	1,700	1,700
	全 幅(ハンドル幅)(mm)	680 (600)	680 (480)	680 (600)
	全 高 (mm)	860	860	860
	輪 距 (mm)	800	800	800
質 量 (kg)	76	76	76	
エ ン ジ ン	名 称	カワサキFA760		
	形 式	空冷4サイクル		
	最大出力 (PS/rpm)	1.7/4,000		
	定格出力 (PS/rpm)	1.25/3,600		
	使用燃料	レギュラーガソリン		
	タンク容量 (ℓ)	1.1		
始動方法	リコイルスタータ			
タイヤ(輪距) (mm)	400-7 (500)	400-7 (500)	300-8 (350)	
車 体	クラッチ方式	ベルトテンション方式		
	差動方式	爪クラッチ		
	変速方式	ギヤ選択方式(前進2段、後進1段)		
走行速度 (km/h)	1速 1.1	2速 4.7	後進 2.6	